

映画会 お知らせ

こどもえいがかい
開始 10:30~
(開場 10:15)
10/19(日)
『DiscoveryCHANNEL
ピロラプトル漂流記』
10/26(日)
『三人の騎士』
11/9(日)
『ファール昆虫記
コオロギとゾウムシ』
11/23(日)
『動物の赤ちゃん
ドキドキ編』

市民映画会
開始 14:00~
(開場 13:30)
10/19(日)
『ストリート・オブ・ファイヤー』
10/26(日)
『マイ・ダディ』
11/9(日)
『クリフハンガー』
11/23(日)
『僕らはみんな生きている』

図書館まつりスペシャル映画会
『タワーリング・
インフェルノ』

11月8日(土)
14時~(開場 13時半)

おはなしのへや

おはなし会

10/4 10/18
11/1 11/15

親子おはなし会

10/24 11/28

2階おはなし会室にて

10:30~開始

CD & DVD 特集コーナー

映画音楽特集

名作映画、アニメの主題曲や
サウンドトラック聴いて
映画の世界へ...

1F 視聴覚コーナーにて展示中

【発行】所沢市立所沢図書館所沢分館 所沢市元町 27-1 ☎04-2923-1243

指定管理者：株式会社ヴィアックス

図書館だより No.119 (通巻)

とこぶん通信

2025
10・11



弘法の三ツ井戸と石碑



大師堂



弘法橋

所沢分館より東川を上っていくと、「弘法の三ツ井戸」があります。全国各地に弘法大師伝説はありますが、ここの伝説は所沢の水問題をよく物語っています。「ひとりの旅僧が一軒の家に立ち寄り、家人の女性に一杯の水を求めたが、水が不便であることを哀れみ、水の出る井戸を三か所指示して立ち去った。この井戸はどんなに日照り続きでも枯れることはなく、後に旅僧は弘法大師であったとわかり、人々は井戸の近くに祠を作り、弘法大師を祭った。」そうです。

三ツ井戸近辺は宙水（粘土層などにさえぎられて、本来の地下水面より上方にたまった地下水塊）地帯をなしているため、2mも掘れば水を得られ、減水期に深井戸の水位が下がっても宙水の井戸はほとんど変化しないそうです。昔の人々にとっては不思議でありがたい井戸として、大事にされてきたのでしょう。

三つのうち東端にあった井戸が現存しており、その裏に弘法大師をまつる小堂があります。毎年八月二十一日近くには弘法大師祭礼が行われています。

＜参考文献＞

『所沢市史 文化財・植物』所沢市史編さん委員会／編 所沢市 1985年 K/222/ト

注目のイベント

エアドーム型のプラネタリウムに
所沢市の星空を映します。

11月22日(土)

① 14:00~14:30 (開場 13:45)

② 15:00~15:30 (開場 14:45)

場所：所沢分館1階多目的会議室

対象：小学生までの児童とその保護者

定員：各回15名(申込制・先着順)

申込：11月1日(土) 9:30 受付開始

図書館カウンターかお電話にて申込

ほしぞらのたまご
所沢の星空案内

とこぶんからのお知らせ

CHECK

図書館まつり

ブックリサイクル展

11月8日(土)・9日(日)

除籍した図書館
の本や雑誌等を
無料配布します。



今年も
やります

今後のイベント

12月
大人向け工作会

2026年1月
健康講座

詳細は館内チラシ
ポスターにてお知
らせいたします。



『本を読む人のための書体入門』
正木 香子／著 星海社

『本を読む人のための書体入門』

正木 香子／著

星海社 2013年

文章を読む一連の行動で文字を拾い、
活字を「読む」という行為には、常に書
体の持つ印象が関わっています。

視覚的に文字を味わい、文字が持つ伝
統とポテンシャルを、著者が幼少期から
の文字愛を尽くして言語化しています。

さまざま書体が紹介とともに使われて
おり、本文中に言及のない書体について
も気になってくる一冊です。

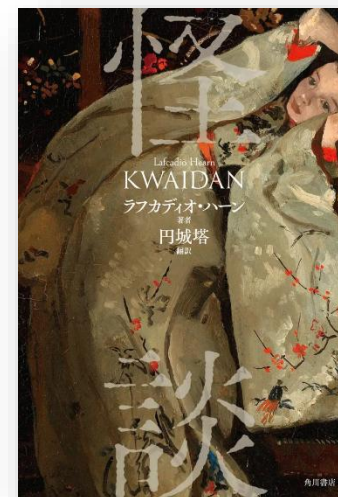
押し本
とこぶんスタッフ選

『怪談』

ラフカディオ・ハーン／著 円城塔／訳
KADOKAWA 2022年

円城塔氏の直訳による本書は、発表された
「当時の英語読者のように読む」をコンセプト
としています。「スライド式のスクリーン」(障
子)や「オシドリ(北京ダック)」といった表
現に未知の文化を伝えようとする苦勞を窺い知
れます。当時の人々にとって、東洋の端っこ
の島国に伝わるフェアリーテイルは、さぞやエキ
ゾチックなものだったでしょう。「ホーイチ」
や「ダン・ノ・ウラ」といった表記が、不思議
な異世界感を醸し出して、これは案外当時の
人々の気持ちに近づくかもしれません。

ハーンと同時代に活躍したジャポニズムの画
家ブレイトネルの装丁も美しい一冊です。



『怪談』
ラフカディオ・ハーン／著
円城塔／訳 KADOKAWA